

# 第13回アジア太平洋呼吸器学会（APSR）に参加して

川 根 博 司

## 【研修報告】

## 第13回アジア太平洋呼吸器学会（APSR）に参加して

川 根 博 司\*

## はじめに

第13回アジア太平洋呼吸器学会（13th Congress of the Asia Pacific Society of Respiriology; APSR）は2008年11月19日から22日までの4日間、タイ・バンコクのクイーンシリキット国際会議場（写真1）で開催された。今回の APSR には400以上の演題抄録の応募があったそうであるが、日本を含むアジア諸国だけでなく、オーストラリアや米国、欧州からの参加者もあった。

筆者は20年ぶりにバンコクを訪れたが、高層ビルが林立し、スカイトレインや地下鉄が走り抜けるなど近代都市としての発展が著しく、その変貌に驚いた。

ただ、タイへ行く前から首都バンコクでは反政府団体が首相府を占拠しており、外務省のタイに対する渡航情報（危険情報）によれば「十分注意してください」とのことで、若干の不安を抱えての入国で

はあった。初日は学会登録を済ませた後、オープニングセレモニーおよびウェルカムレセプションに出席した。2日目午後のポスタープレゼンテーションにおいて、筆者らがラジオで5年間にわたり行った禁煙キャンペーンの経験について発表したが、その内容を簡単に述べるとともに、タイにおける喫煙対策の現状を紹介する。

## 学会発表の内容

筆者は2002年の世界禁煙デー（5月31日）から2003年3月末まで、地元放送局RCCラジオの朝の情報番組に毎週1回電話で生出演し、アナウンサーやディレクターとともに禁煙キャンペーンを行った。このことについては、2003年に開催された第13回欧州呼吸器学会において報告した（川根，2004）。2003年4月からもラジオ番組「本名正憲のきょうもゴゴイチ」の中で、月に一度ではあるが、禁煙講座として約15分間の生放送を続けることになった（川根，2006）。日本や海外の禁煙に関するトピックスを中心にアナウンサーと話を進めながら、未成年の喫煙防止、受動喫煙からの非喫煙者の保護、禁煙支援など包括的な喫煙対策について解説するようにした。今回は2002年5月から2007年5月までの5年間の禁煙キャンペーンをまとめて発表し、日本の最近の禁煙事情もあわせて紹介した。表1にマスメディアによる禁煙キャンペーンの役割を示すが、第13回 APSR で発表した演題の要旨は、学会誌・増刊号に英文抄録が掲載されていることを記しておく（Kawane, Honna, Masui 2008）。



写真1 クイーンシリキット国際会議場のロビーにて

表1 マスメディアによる禁煙キャンペーンの役割

- 喫煙の害などについての啓発
- タバコ問題に関する情報提供
- 未成年者の喫煙防止
- 喫煙者に対する禁煙の動機づけ
- 禁煙方法の手引きと禁煙実行者への支援
- 「タバコのない社会」へ向けての世論づくり

\* 1 日本赤十字広島看護大学 kawane@jrchn.ac.jp



## タイにおける喫煙対策の現状

タイはアジアの「禁煙先進国」として知られており、1990年代から喫煙対策の法的規制を実施してきた。2002年からエアコン設置の建物内での喫煙が禁止され、日本のように喫煙可能なホテルの客室はない。飲食店も禁煙で、食事しながら喫煙はできない。観光中に昼食のため立ち寄った郊外のレストランでは、飲食エリアから離れた屋外に喫煙所が設けてあり、どうしても一服したい人はそこへ行ってタバコを吸っていた。2005年にはタバコのパッケージに健康被害の具体的な写真や図柄を入れることが義務付けられた。写真2のマイルドセブンは筆者がスーパーマーケットで購入したものであるが、タバコの陳列販売が法律で禁止されているので、商品は客から見えないうレジ・カウンターにある戸棚の中に隠してあった。また、テレビや映画での喫煙シーンはご法度で、以前に見た海外アニメ作品では、喫煙者の口元にモザイクが入れてあるほど徹底していた。



写真2 タイで販売されているタバコ

以上のように、タイは批准している世界保健機関（WHO）の「たばこ規制枠組条約（FCTC）」を着実に履行しているといえる。タイで成果が上がっているのは、法律を作る国、非政府組織（NGO）、医療団体が連携して禁煙を推進しているからである。タイのいわゆる禁煙法は、禁煙環境推進、増税、広告・販売規制の3つに重点が置かれている。残念なことに、日本も同じ批准国でありながらタイの喫煙対策に比べると大きく遅れている。その最大の理由は国民の健康より税収を優先する「たばこ事業法」に求められるであろう。政府は早くこの法律を廃止して、タバコ問題を財務省から厚生労働省へ移管させるべきである（川根，2009）。

## おわりに

第13回 APSRに参加してタイ（バンコク）の喫煙対策の実情を知ることができた。今回の学会において、今までにも何度かお会いしたことのあるファガストローム博士と再会し、話ができただのは嬉しかった（写真3）。ちなみに、ヒポクラテスを知らない医師、ナイチンゲールを知らない看護師がいないように、禁煙の分野で博士（ファガストロームのニコチン依存度テストで有名）の名前を知らない人はいないであろう。いろいろ楽しい思い出を胸に、11月22日の深夜バンコク・スワンナプーム国際空港から予定通り出国し、23日朝に関西国際空港に無事帰着した。まさかその2日後にスワンナプーム空港が反政府デモ隊によって占拠され、空港が閉鎖される事態になるとは夢にも思わなかった（図1）。最近の情報によると、空港を占拠したデモの印象がまだ消えないタイではあるが、禁煙政策は国民の強い反発もなくうまく進んでいるという。

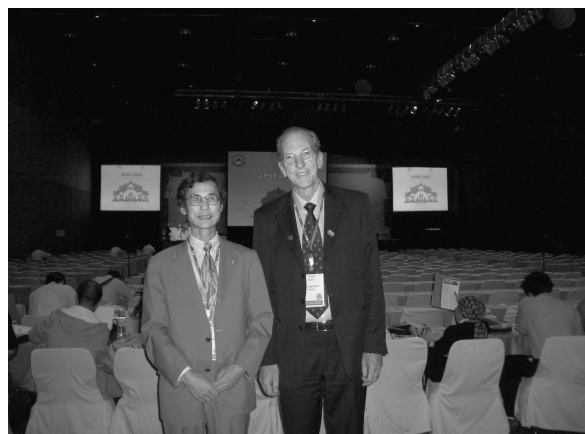


写真3 ファガストローム博士と筆者（講演会会場にて）

平成20年(2008年)12月3日 水曜日

産経新聞

バンコクの治安回復を願う

太学教授 川根博司 60

バンコクの空港が反政府勢力によって占拠されるなど、タイの混乱が続いている。私はバンコクでの国際学会に出席し、占拠事件の2日前に帰国したばかりなので大変驚いている。滞在、市内は平穏だったが、地下鉄に乗るときだけは、警察官による手荷物のチェックを必ず受けなければならなかった。今回のタイ訪問には、厳しい喫煙規制を視察する目

勢いによって占拠されるなど、タイの混乱が続いている。私はバンコクでの国際学会に出席し、占拠事件の2日前に帰国したばかりなので大変驚いている。滞在、市内は平穏だったが、地下鉄に乗るときだけは、警察官による手荷物のチェックを必ず受けなければならなかった。今回のタイ訪問には、厳しい喫煙規制を視察する目

的もあった。聞いていたとおり、建物内は全面禁煙となっており、街を歩いている人は全く煙草を吸っていない人ばかりだった。タイ政府のたばこ規制は立派だが、今回の騒動にはうまく対応できていないようだ。今後、さらなる混乱も予想される。学会や街で出会った「ほろえの国」の人たちのためにも、早期の治安の回復を祈りたい。（広島県廿日市市）

図1 バンコクの状況についての新聞投書

## 謝 辞

今回の国際学会に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

## 文 献

川根博司 (2004). ラジオによる禁煙キャンペーン「キック・シガレッツ」－国際学会での発表を終えて－. 日本赤十字広島看護大学紀要, 4, 47-49.

川根博司 (2006). 呼吸器関連学会の喫煙対策への取り組み. 日本呼吸管理学会誌, 15, 402-405, 2006.

Kawane, H., Honna, M., Masui, T. (2008). Mass media antismoking campaigns: 5-year experience on the radio in Hiroshima. *Respirology*, 13, A177.

川根博司 (2009). 医療従事者と喫煙. 成人病と生活習慣病, 39, 996-1000.

